

ほっかいどう矯正だより

第18号（令和6年11月13日）

「再犯防止×地方創生」政策提案型ワークショップ

令和6年10月、当札幌矯正管区で各矯正施設において地域との連携窓口を担当する職員を対象とした研修の一環として、自治体や関係機関の職員、地域の皆様と一緒に、本ワークショップを実施いたしました。

1 株式会社エルアイズ 「新しい価値を生み出す方法について」

本ワークショップのテーマである「再犯防止×地方創生」という非常に難しい課題に対して、新たな政策を企画・立案していくために、本年は様々な企業等から依頼を受けて、商品開発や企業改善を提案しているマーケティング会社に講義を依頼することとしました。



講義の様子
（株式会社エルアイズ代表 山本亜紀子氏）

株式会社エルアイズの代表 山本亜紀子氏に御協力をいただき「新しい価値を生み出す方法」について学びました。

矯正職員は法律を遵守し、規律や秩序を守る仕事を行っているため、新たな発想や提案をすることに慣れておらず、本講義で柔軟な発想力を身に付ける機会としました。

2 これまでの矯正施設と地域社会との関わり

明治時代には囚人を北海道開拓の労働力とし、地域社会に貢献してきました。

昭和に入ると、過酷な労働条件への批判が高まり、昭和6年（1931年）には、囚人労働は終わりました。

一方で、戦後、GHQの勧告もあり、受刑者労務を北海道開発事業に活用するという国の方針が示され、成績優秀な受刑者を中心に、全国の刑務所から約3,000人が北海道に集まりました。これが「**北海道開発名誉作業班**」で各地の道路改良等を行い、地域社会に貢献しました。

例）「厚真名誉作業班」（厚真村史1956年）

札幌刑務所の囚人150名を作業させた。最初これを知った地元農民は、凶悪な囚徒の多数身近に入り込むことに不安を感じ、一部拒むものもあったが、5年間の長年月に渉り、何らの不祥事件も起こさず、河川改修工事に稼働したため、地元民も次第に理解を深め、進んで野菜の提供を行うようになった。

3 ワークショップ

ワークショップの検討テーマは「再犯防止×地方創生」です。先に述べた話は時代が異なるとはいえ、囚人が北海道開拓に尽力し、戦後には最大規模の郊外作業が行われ、地域社会との交流も行われておりました。しかし、現代においては、地域との交流が減る一方で、犯罪をした者の再犯防止や社会復帰には地域による支援が欠かせず、連携が必要となっております。



日本ファシリテーション協会協力

本ワークショップでは、矯正施設が地域に対してできること、地域が再犯防止や出所者等に対してできること、地域の困りごとや矯正施設の特性を生かせるものを整理しながら、新たな視点での連携した取組を考えていくこととしました。

テーマが難しく、なじみにくいものであったことから、「**矯正施設と地域、双方にとって良い取組・施策アイデアとは**」と柔らかい表現で検討いただきました。

グループワークには、自治体や関係機関職員、大学教授から大学生まで、様々な立場の地域の皆様に御参加いただきました。

4 提案紹介

7グループに分かれて、刑務所及び所在している地域との連携について提案いただき、下記のアイデアが選ばれました。

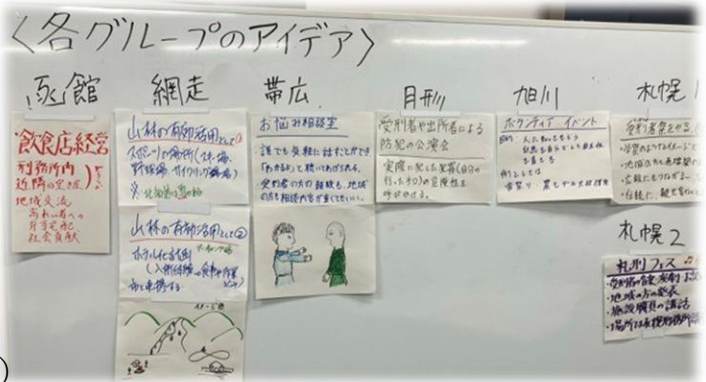
- ① 札幌フェス（札幌刑務所）
- ② 受刑者祭（札幌刑務支所）
- ③ ボランティアイベント（旭川刑務所）
- ④ 刑務所内飲食店経営（函館少年刑務所）
- ⑤ 受刑者によるお悩み相談室（帯広刑務所）
- ⑥ 受刑者や出所者による防犯の公演会（月形刑務所）
- ⑦ 山林の有効活用（網走刑務所）

いただいたアイデアを矯正で検討し、実現に向けて歩みを進めていきます。

御参加いただきました皆様、
貴重な御意見、ありがとうございました。

こんな時、ぜひ当課にご用命ください。

- ・ 地方再犯防止推進計画について相談したい。
- ・ 策定委員会・勉強会へ職員を派遣してほしい。
- ・ 再犯防止に関する統計データを提供してほしい。
- ・ 刑務所、少年院とコラボして何かをやりたい（イベント、勉強会など）



本紙に関するお問合せ

法務省 札幌矯正管区 更生支援企画課

〒007-0801

北海道札幌市東区東苗穂1条2丁目5番5号

TEL 011-783-5021（直通）

FAX 011-780-2207

メール：1.sapporokyousei.6cc@i.moj.go.jp

本誌バックナンバーは
札幌矯正管区フロントページに
掲載しております。
是非御覧ください。
フロントページQRコード▶

